

もも・ネクタリン特報

【定期散布】

・隣接する園地や収穫中の作物に飛散しないよう十分注意する。

もも

第11回 定期防除

散布時期：前回散布から15日以内（8月5日～8月15日頃）

＊除袋間近な場合は、除袋後に散布を実施する。



散布薬剤：	水	100%
	展着剤	20ml
	オーシャインフロアブル	50ml（前日、3回）
	ディアナWDG	10g（前日、2回）

散布日	8月	日
散布量		リットル

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アザミウマ類、ハマキムシ類
10a 当り散布量：600%

【注意事項】

- ① ハダニ類の発生が心配される場合は、ダニゲッターフロアブルの2,000倍（前日、1回）を加用散布する。
- ② ディアナWDGに代えて、コテツフロアブルの2,000倍（前日、2回）を散布してもよい。

ネクタリン

第11回 定期防除

散布時期：前回散布から15日以内（8月5日～8月15日頃）

散布薬剤：	水	100%
	展着剤	20ml
	オーシャインフロアブル	50ml（前日、3回）
	ディアナWDG	10g（前日、2回）

散布日	8月	日
散布量		リットル

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ、アザミウマ類、ハマキムシ類
10a 当り散布量：600%

【注意事項】

- ① ハダニ類の発生が心配される場合は、ダニゲッターフロアブルの2,000倍（前日、1回）を加用散布する。
- ② ディアナWDGに代えて、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を散布してもよい。

◆ダニゲッターフロアブルは、開花期の水稻にかかると不稔等の薬害を生じる恐れがあるため、飛散しない。

◇果実腐敗防止対策 降雨が続く場合、系統の違う剤をローテーション散布する。

＊詳細は、もも・ネクタリン特報No.9をご覧ください

裏面には、生育情報と除袋目安が掲載されております。

収穫の際は、まず食べてみて味を確かめましょう。（熟度優先、食味重視）

明らかに地色が残る未熟果は、収穫しないようご注意ください。

また、今後の品種の成熟は前年よりも5日程度早いと予想されます。除袋・反射マルチ・葉摘み等の管理作業は、遅れないように進めましょう。

1. H28 収穫開始予想

直前の気象条件により前後します。下表を参考に、果実の状況を見て収穫適期を判断しましょう

＊樹勢衰弱が見られる場合は、熟期が早まりますので、ご注意ください。

	品種名	南部地区	平岡地区
もも	なつっこ	8 / 3 ~	8 / 5 ~
	山根白桃	8 / 4 ~	8 / 6 ~
	川中島白桃	8 / 18 ~	8 / 20 ~
	黄金桃	8 / 19 ~	8 / 21 ~
ネクタリン	フレーバートップ	8 / 5 ~	8 / 7 ~
	ファンタジア	8 / 18 ~	8 / 20 ~

2. 除袋目安

＊あくまで目安ですので、果実の地色の抜け具合を確認し、除袋をすすめましょう。

品種	除袋 目安		
川中島白桃、黄金桃	収穫 8～10 日前	南部地区	<u>8 / 8 頃</u> までに除袋
		北部地区	<u>8 / 10 頃</u> までに除袋

3. 新梢管理について

樹冠内部や主枝・亜主枝の背面から発生した旺盛な徒長枝は、成葉4～5枚残して摘芯する。

樹勢が弱い樹は過度に摘芯するとさらに樹勢低下を招くので、できるだけ新梢は切らない。

4. かん水について

1週間降雨がない場合、晩生種以降の品種は灌水を行う。

収穫7日前には、灌水を止める。（食味重視のため）

5. 反射マルチの利用

高温による果肉障害（軟化）対策として白色マルチ・タイベック等を活用しましょう！

★大部分の果実は下を向いています。樹下から紫外線をあて着色向上を！！

白色マルチ「タイベック」等を使用すると、着色向上と成熟の極端な進みを回避できます。

【使用時期】 ・着色のしやすい品種＝収穫5～7日前 ・着色しにくい品種＝収穫始めの10～14日前

枝折れが散見されます。支柱立て等を実施しましょう。